

単位数	必履修・選択	レポート数	出席義務時数	テスト回数
2	選択必履修	6	8	2

教科書	学習書・他教材
「改訂 新編生物基礎」(東京書籍)	なし

学習目標
日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

学習計画		
学習項目	学習内容	試験範囲
1 生物の特徴	・生物の多様性と共通性・・・多様性と共通性とは、細胞にみられる多様性と共通性 ・生命活動とエネルギー・・・生命活動を支える代謝、代謝を進める酵素、生体内のエネルギー変換、葉緑体とミトコンドリアの起源	前期試験
2 遺伝子とそのはたらき	・生物と遺伝子・・・DNAの構造、DNAとゲノム ・遺伝情報の分配・・・細胞分裂におけるDNAの複製と分配、DNAの倍加、DNAの正確な複製 ・遺伝情報とタンパク質の合成・・・DNAとタンパク質合成、遺伝子の発現と生命現象 ・体内環境の維持・・・体内環境と体液の循環、恒常性と血液、体内環境を調節する器官	
3 生物の体内環境の維持	・体内環境を保つしくみ・・・自律神経系による調節、ホルモンによる調節 ・体内環境を保つしくみ・・・自律神経系と内分泌系による協同作業	
4 生物の多様性と生態系	・体内環境を守るしくみ・・・免疫のシステム ・体内環境と守るしくみ・・・免疫のシステム、免疫とヒト ・植生の多様性と遷移・・・生態系、植生と生態系、植生の遷移 ・バイオームとその分布・・・バイオームとその分布、さまざまなバイオーム ・生態系とその保全・・・生態系でのエネルギーの流れ、生態系での物質の流れ、生態系のバランス、生物多様性の保全	後期試験

評価規準と評価方法					
次の4つの観点に基づき評価を行います					
①関心・意欲・態度：日常生活や社会と関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、意欲的に探求しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど科学的な見方や考え方を身に付けている。					
②思考・判断・表現：生物や生物現象の中に問題を見だし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。					
③観察・実験の技能：生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。					
④知識・理解：生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。					
評価方法・観点	①	②	③	④	備考
スクーリング状況	◎			○	プリントの活用状況
レポート	○	◎		◎	提出状況、評価
定期考査		○		◎	年2回実施
実験レポート	○	◎	◎	○	レポート中の実験やスクーリング時の実験
※表中の◎は観点の中でより重視するところです。					
・定期考査の成績、提出レポート、その他スクーリングや実験への取り組みなどを成績に加味し、総合的に評価します。					
・各レポートにA～E（Eは再提出）の評価をつけます。提出期限を過ぎたレポートは大幅に減点します。提出期限を守って提出してください。					

授業の進め方、課題・提出物など
教科書を使用し、パワーポイントを利用して、主にプリント形式で進めます。レポートは教科書をよく読み、自分で作成してください。ヒントとなるページが掲載されているので、そこを通読して取り組むといいでしょう。また、スクーリング時にはレポートの内容の解説も行います。まずレポートに挑戦して、その後にレポートに対応したスクーリングに参加すると、学習効果が上がります。自分で調べてもわからないところは担当に聞きにきてください。特別教室、校外学習会もあるので月報等の授業計画をみて、積極的に参加してください。

担当者からのメッセージ
・スクーリングはチャイムと同時に始まりますので、教材を用意して着席をしていてください。他人の迷惑になるので絶対に遅れないようにしてください。 ・NHK高校講座や図書館などを利用し、自学自習を心がけてください。